opusdei.org

属人区長の書簡 〔2015年8月〕

属人区長は8月の典礼の祝日に触れ、オプス・デイで過ごしている『家族のため』のマリア年を機会に、子供の愛情の教育における親の役割に関する考察を行なっています。

2015/08/12

愛する皆さん、イエスが私の子供た ちをお守りくださいますように!

8月の半ばには光輝ある聖母被昇天 祭があります。この祭日は、神の恩 恵に全面的に応えられた私たちの母なる御方に相応しい栄光のお祝いであり、私たちもキリスト者としての召し出しに忠実に応えるなら、約束されている至福の象りでもあります。

第二バチカン公会議が思い起こさせています。「教会は、いとも聖なる処女(おとめ)と結びついてすでに完成に到達し、しみもしわもない(エフェソ5,27参照)ものであるが、したりまり、まだ罪を克は、まだ罪を内面で成長しようと努めている。したがって信者は、選ばれたとって対して輝くマリアを仰ぎ見る」 [1]。

始まったばかりの今月には、他にも喜びに満ちて聖母をほめたたえる日があります。明日2日は天使の聖母の祝日です。5日は、聖マリア教会の献堂記念日で神の母としての聖母

を思い起こします。最後に、22日は 天の元后聖マリアの祝日です。翌23 日は、聖ホセマリアがあの内的照ら しを受けたことを記念します。 Adeámus cum fidúcia ad thronum glóriæ, ut misericórdiam consequámur: 慈しみに与るため、 栄光の座である聖マリアに信頼を 持って近づこう。

これらの日付は、神が私たちのために準備されている永遠の住まい、栄る光が与えられた身体と霊魂を有する私たちの住まい、に思いを馳せるうに促します。そこには、神が一大のとりにお望みになった道をおっていまが後で、到着するのですが、ないなが後で、到着するのですが、ないはど多種多様であることを知っていほど多種多様であることを知っています。

主は、大多数の男女を結婚生活における聖性の道に招かれます。他にも多くの人が、教会と人々にindivíso

corde [2]分かたれない心で仕える ため、独身の賜を頂きます。どちら にしても 一結婚にしろ、独身にしろ 一 主が一人ひとりにお望みになった 神的召し出しに変わりないのです。

聖ホセマリアは、この現実をすでに 前世紀の30年代から確信をもって代から確信をもって代から確信をもい間、四日に表していました。長い間にはおりませる。日本のではははいまれたが、創立でははいるのです。「『あなたにはおります。「『ある』と言ったははいのうが、ある」にはいる。そう、結婚は召し出しなのる。[3]。

子供たちが神に導く自分の道を自由 に選び取るため、相応しい準備をす るよう助け、良い教育をする必要が あります。これこそ正に両親固有の 仕事なのです。教会はいつも、両親

に、これは他人任せにしてはならな い彼らの義務であると繰り返してい ます。すでにピオ11世が、「倫理と 貞潔のような非常にデリケートな問 題に関する教育分野に侵入している (…)、自然主義」[4]の悪弊を非難 しておられます。そして、聖ヨハ ネ・パウロ二世は使徒的勧告「家 庭 | で、それを再確認しておられま す。「自己を与える愛の教育も (…)、親にとって、絶対必要な前提 です。人間の性をありふれた通俗的 なレベルに大幅に引き下ろす傾向の 文化に直面して、多くの人々が人間 の性を単に肉体や利己的な快楽だけ に結び付けて歪曲した貧弱な仕方で 解釈し、またそれを生きています| [5]。一家の主になっている人たち は、この務めにおいて、神に象って 神に似たものとして創造された人間 の尊厳を、真摯に受け止め、考察し なければなりません。

で、親しみ易く上品に、皆さんの子 どもたちの不安を察知するようにし なさい。祈りに支えられて細やかに 振る舞うときが訪れたのです。

聖ホセマリアは、母親たちに向かい、命の始まりについては親自身が、分かりやすい例を使って話すように、愛情深く、子供たちに話すよらに勧めていました。また、神からなかった夫婦たちにも、大きにもいり、模範と言葉で協力するとはいて、模範と言葉で協力すると望を示しました。

神が、多くの男女を結婚生活に招いておられることを思い起こしてもらいました。この生活を準備するかけいの大は非常に重要な時期です。カトリック教会のカテキズムは、仕事や生活仕方を選ぶ子供たちの権利とで養を強調すると同時に、こう近任を務を強調すると同時に、こうでであると同時に、こうでであるとの信頼に満ちた関係を保ちなであるとのの男女を結婚を記述さればいる。

がら担い、進んで両親の意見や助言を求めるべきです。両親はわが子が明は、強制は、強制は、強制はない。 一切では、強いないです。 できる際にはできる際にはできるがいるとくにわが子が新しいをないではない。 かんのは、としているような場合にはならないです」 [7]。

創立者は、婚約時代は長すぎないようにと助言していました。お互いに相手のことが分かり、愛情を確かめ合うことができたら十分でしょう。 どちらも結婚生活の中でより深めていくべきことですから。その間、節制し、神の掟に従って過ごすことが大切です。

嘆かわしいことに、この分野にも、 自然法や神の掟を全く無視した誤っ た考えや振る舞いがはびこってしま いました。教皇フランシスコは、数 か月前の一般謁見で、教会の伝統的 な教えの幾つかを説明されました。 その中にこういう説明があります。

「男女間の誓いは、一生の誓いであり、即席に結ばれるものでもありません。『結婚特急』などありません。わたしたちは愛のために努め、男るとのです」[8]。そして現実的なもとのです」[8]。そして現実的なるとのを続けられました。「あらゆるとを続けられました。「あらる人は、を性急に一直ぐに一求める人は、すべてをあきらめます」[9]。

両親が子どもたちの身体的、精神的な発達に留意しているなら、適切な助言、あるいは指導の必要な時を見極めることが簡単にできるでしょう。同時に、神と人々に仕えるため、素晴らしい使徒的独身の召し出しの可能性を認めなければなりません。両親が、子供の望んでいる道に

は、愛を理解したり大切に考えたりできない鈍感無知の人間ではなく、その生涯は全てのキリスト信者の召命の神髄そのものである神への愛ー愛にてまします神を表すために愛という字を好んで太字で書きますーにこたえて生きる愛の生涯であると説明できるでしょう。

結婚生活への召命がよきものである と考えることと、『天の国のため に』(マテオ19,12)独身への召命がよ り優れていると考えることの間には 矛盾は全くありません。教会の教え を知り、受け入れ、愛そうと努める キリスト信者、さらに自分自身の召 命を知り、受け入れ、愛そうと努め るキリスト信者であれば、換言すれ ば、信仰をもち信仰に則って生きる 人であるならば、この二つの事柄が 両立することを完全に理解できるは ずです。(…)したがって、結婚生活 において聖人になろうと努め、その 召命の偉大さに気がついているキリ

スト信者ならば、使徒的独身に呼ば れている人たちに対して特別の尊敬 と深い愛情を自然に感じるようにな るでしょう。そして、神の恩恵に よって子供が使徒的独身の道を進む うとするときには、心から喜ぶこと でしょう。そして自分たちの結婚の 自然的な愛情の実りを、独身者に とっても既婚者にとっても皆にとっ ての偉大な愛であるイエス・キリス トに捧げることができたことで、更 に結婚の召命を愛するようになるで しょう。独身者にも既婚者にも皆に とって偉大な愛にていますイエス・ キリストに、人間的な愛情の実りを お捧げすることができるのは結婚を 通してのみであると知るならば、結 婚への召命を受けたことに深い感謝 を抱くはずなのです | [10]。

来る15日には 一例年のように一 甘 美なマリアの御心へのオプス・デイ の奉献を更新します。これは、1951 年に創立者がロレトの聖家族の家で 始めてしました。その時勧められた 射祷 —Cor Maríæ dulcíssimum, iter para tutum!— を度々唱えるように しましょう。結婚生活に招かれた人 のためにも、使徒的独身の道でイエ ス・キリストに従うよう召された人 のためにも、皆のために確かな道を 整えてくださるようお願いすること です。

先日ルルドに行く機会がありまし た。想像のうちに、皆が行くところ に同伴しつつ、あらゆる聖母の巡礼 地に赴きました。教皇様とそのご意 向のため、また家族に関する秋のシ ノドスのために私と一致して祈るこ とを忘れないでください。過日、オ プス・デイには関係のない人たちが 「オプス・デイでは聖母を深く愛し ているのですね と繰り返していま した。彼らは理由もなくそう言って いるのではありません。私たちは一 人ひとり、よりいっそう聖母を愛す るよう努めなければならないので す。

心からの愛を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

†ハビエル

パンプローナ、2015年8月1日

- [1] 第二バチカン公会議、「教会憲章」65番。
- [2]1コリント7,32-34参照。
- [3] 聖ホセマリア、『道』27番。
- [4] ピオ11世、1929年12月31日回 勅『青少年のキリスト教的教育』49 番。

- [5] 聖ヨハネ・パウロ二世、1981年 11月22日使徒的勧告「家庭」37番。
- [6] 同上参照
- [7] 『カトリック教会のカテキズム』2230番。
- [8] 教皇フランシスコ、2015年5月 27日一般謁見の講話。
- [9]同上
- <u>[10]</u> 聖ホセマリア、『会見記』92 番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/zokujinkuchouno-tegami-2015-8/(2025/12/16)